

高齢期の自殺の現状について

- ・長岡市のここ数年の自殺者数は年間60人前後で推移している。依然として県・国の自殺死亡率を上回っている。
- ・男性は働き盛りの多いのに対し、女性は高齢期に多く、年代が上がるほど増加している。60歳以上の自殺者の内訳をみると、全国に比べて、男女とも独居より同居ありの自殺者の割合が高くなっている。
- ・例年、男性が女性の約2倍、自殺で亡くなっているが、令和3年は女性が男性を上回った。特に80代以上の高齢女性の増加が目立った。コロナ禍において、孤立・孤独感の深まりが背景にあることが予想される。
- ・高齢者の自殺は病気による悩みや身体機能の低下などに伴い、社会的な役割の喪失感や孤立感、人の世話になることへの負担感等が原因となることが多いとされている。

《長岡市の主な自殺者の特徴》（2018～2022年合計）（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地）より集計）

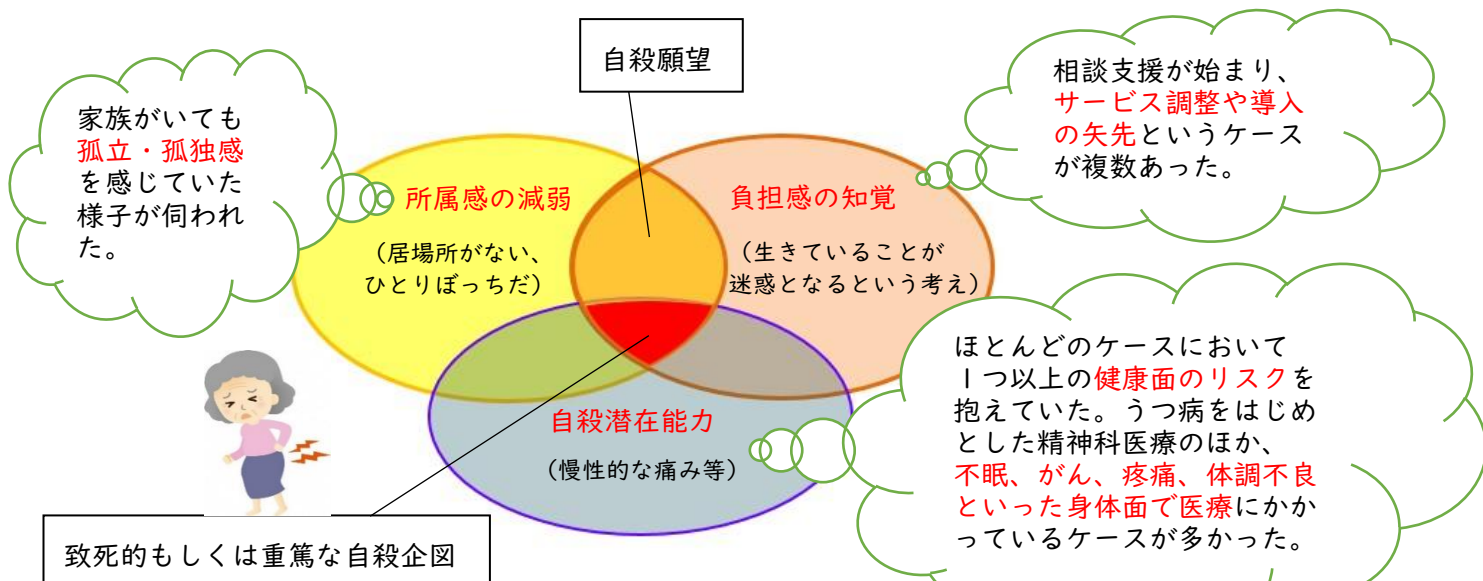
出典：いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 更新版」

自殺者の特性上位3区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率 (人口10万対)	背景にある主な自殺の危機経路*
1位:女性 60歳以上無職同居	40	13.7%	21.7	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
2位:男性 60歳以上無職同居	39	13.4%	35.5	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
3位:男性 40～59歳有職同居	33	11.3%	22.9	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺

*「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書 2013」を参考に推定したもので、自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意が必要。

地域包括支援センターが担当・把握した高齢者の自殺事例の聞き取り調査※から見えたこと

※令和4年度 長岡保健所・中越いのちとこころの支援センター・健康課実施



(自殺の対人関係理論 Joiner2009) 自殺願望に、自殺潜在能力が加わったとき、自殺が行動化される

- 自殺事例の聞き取り調査より、相談支援が始まり、サービス調整や導入の矢先に自殺というケースが複数あった。疾病や障害で自分の事が自分でできなくなる、あるいはそれを実感することにより、家族や他の人の世話になることへの遠慮、負担感があったのではないかと推察される。

→介護サービスの利用検討が始まる時期は要注意である。

日ごろ、高齢者の方と接する機会が多い皆様から、ぜひ現状を理解し、それぞれの立場で、自殺予防に取り組んでいただきますよう御理解と御協力をお願いします。

来年度、高齢者の抱える問題や異変を早期に察知し、適切な機関へつなげていただけるよう介護支援専門員を対象にゲートキーパー研修会を開催予定です。ぜひ多くの皆様から御参加いただきたいと思います。